

学校だより



令和4年3月1日
横浜市立二谷小学校
校長 矢島 孝幸

「あいさつ」

学校長 矢島 孝幸

寒さが厳しい日々が続いておりますが、日中の陽ざしから春の気配を感じる今日この頃です。

気がつけば、令和3年度も残すところ一ヶ月となりました。6年生は、もうすぐ中学校へ進学します。1～5年生は、新しい学年への進級に向け、新たな希望を胸に抱いている毎日です。一人一人が希望をもって4月を迎えられるよう、残りの日々を大切に過ごしていきます。新しい年度を迎えた時、コロナウイルスの感染が収束傾向となり子どもたちの元気が溢れる学校となることを期待しています。

先日のことです。登校中の3年生が声をかけてくれました。「校長先生、今日はいいことがあるんだ。」「何があるの?」と訊ねると「誕生日なの。」と、とても嬉しそうな顔で学校に向かって歩いていきました。下校後に何か楽しい約束をしているのだろうか…と想像できました。子どもたちは、楽しみがあると本当に素敵な表情を見せてくれます。子どもたちの嬉しそうな表情が自然と表れるような学校にしていかなくてはと改めて思いました。そのためにも一人一人の気持ちを大切にすることを忘れずに日々の教育活動に取り組んでまいりたいと思います。

2月の朝会で「あいさつ」の話をしました。「どうしてあいさつをするのか」少しだけ沈黙の時間をとり、子どもたちに心の中で考えてもらいました。子どもたちがどのように考えたのかは分かりません。あいさつは、言われてするものではなく、人と人の心を繋ぐ大切なものだという事を伝えました。目に見えるものではありませんが、一人一人が安心して生活したり、勇気をもらったりするものであるという事を話しました。最後に「あ・い・さ・つ」の4文字を使って次のように伝えました。

『**あ**：あかるく あいてを見て』 『**い**：いつでも だれにでも』

『**さ**：サスティナブル（ずっと続けて）』 『**つ**：つながろう』

あいさつの大切さは、誰もが分かっています。あいさつによって心が穏やかになることも誰もが自然と感じているはずですが、ただ、子どもたちにあいさつが身に付くためには、繰り返し言い続けることが必要です。これからも折に触れ、子どもたちに話をしていきたいと思っております。言われたからする「あいさつ」ではなく、子どもたちの自然な言動として「あいさつ」が交わされる学校となることを期待したいと思っております。

一年間、学校のリーダーとして活躍し、全校児童のお手本となった6年生が3月18日に二谷小から新しい世界へ羽ばたきます。1年生のお世話をしたり、児童会活動をリードしたり、学校の『顔』として自慢の6年生でした。4月からは、5年生が中心となって、6年生が築いてくれた二谷小の力を踏襲してくれるでしょう。今年度も様々な行事や活動が制限され、やりたいことを思い切りできなかったと思います。そのような中でも懸命に頑張ってくれた6年生に感謝します。新たな環境の中で、二谷小で培った力を最大限に発揮してくれることを期待しています。一年間ありがとう。

保護者・地域の皆様、今年度も本校の教育活動へご支援を賜り、ありがとうございました。昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染状況に応じながらの一年間でした。その中でできることは何かを模索して取り組んできたつもりです。皆様のご協力のおかげで、教育活動を進めることができました。

令和4年度も子どもたちの安全・安心・笑顔を大切に二谷小学校となるよう教職員一同で取り組んでまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。